

Title	初等情報教育におけるウェブサイト制作実習の教材試作
Author(s)	内藤, 美千絵
Citation	デザイン理論. 2004, 44, p. 146-147
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52844
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

初等情報教育におけるウェブサイト制作実習の教材試作

内藤美千絵／名古屋大学大学院人間情報学研究科前期博士課程

1. 背景と目的

1990年代以降、ウェブの利用が一般に普及した。それまで一部の研究者や教育機関のみで利用されていたウェブが一般に広まったことにより、コンピュータに詳しくない、または利用に慣れていないユーザが増え、ウェブにおいて使いやすさが求められるようになった。その中で、「ウェブデザイン」という言葉が定着し、特にユーザビリティという考え方への注目が集まった。現在では、ユーザビリティが、ウェブサイトの善し悪しを判断する一つの基準とまでなっている。

しかし、現状でユーザビリティに対する取り組みを積極的に行っているのは、ウェブサイトビジネス目的で利用する企業のサイトやニュースサイトなどの大規模なサイトが多く、専門家ではない個人が制作したサイトでは、未だユーザビリティに対する意識は低いものが目立つ。

そこで、本研究では、初心者を対象としたユーザビリティについての情報や教育が不足していると考え、この現状を改善するために、ユーザビリティに基本をおいたウェブデザインの教材を提案し、試作を行う。

2. 現状の問題点

個人が制作したサイトにユーザビリティを意識したものが少ないという現状の原因を調査した結果、以下の2つの問題点が浮かび上がった。

- ・初等情報教育におけるウェブサイト制作実習の内容が技術教育主導である
- ・初心者向けのウェブ・ユーザビリティの

教材が十分でない

第一の問題に関しては、大学の教養教育系情報科目のシラバスを、20大学33授業分調査した。その結果、ウェブサイト制作実習の内容は、HTMLの記述法や画像処理法など、コンピュータ技術の分野に重点がおかれており、デザイン教育はほとんど行われていないことが明らかになった。

第二の問題に関しては、市販のウェブサイト制作の関連書籍の内容を調査した。その結果、全体として記述言語や特定のアプリケーションソフトの解説書が多く、ウェブ・ユーザビリティに関する書籍は圧倒的に少ないことがわかった。さらに、ユーザビリティに関する書籍も、ビジネス目的でウェブサイトを活用する企業向けの内容が多いことが明らかになった。

一方、初等情報教育の受講対象である学生にウェブサイトに対する意識調査を行ったところ、現状の問題点に反して、学生にユーザビリティの高いウェブサイトを作成する意欲があることが分かった。

3. 提案教材

前章までに挙げた問題を解決するため、本研究ではユーザビリティに基本をおいた初心者向けのウェブデザインの教材を提案する。提案する教材は、テキストとチェックシステムの二つから成る。以下にその解説を述べる。

テキスト

ウェブ・ユーザビリティの概論をデザイン視点から解説する啓蒙書的な内容である。その性質上、読みやすさを優先させること

を重要視し、書籍の形態をとっている。以下にその特徴を挙げる。

- ユーザビリティの視点からの実際のサイト制作の流れにそった構成
- 特定の記述言語やアプリケーションソフトに依存しない内容
- シンプルなグラフィックスを多用した解説
- 少ないページ数での解説

チェックシステム

完成したウェブサイトのユーザビリティテストを行うための自己評価ツールである。実習の内容や個人の必要に合わせた項目の提示ができるよう、ウェブ上での提供とした。以下に特徴を挙げる。

- 70項目近くのユーザビリティのチェック項目を、テキストの章立てに対応させて分類
- 実習の進捗や個人の必要性に合わせた項目の提示が可能

以上二つの教材を用いることで、ユーザビリティを高めるウェブデザインの習得が可能となる。具体的な想定利用状況は、大学における初等情報教育とし、対象は初等情報教育の受講生で、かつウェブサイト制作の初心者とする。

4. 試作

提案教材を構成するテキストとチェックシステムについてそれぞれ解説する。

テキスト

試作したテキストは、図1に示す通りである。サイズはB5版、全ページ数48ページ(本文32ページ)となっている。

チェックシステム

HTML, JavaScript を用いてチェックシステムの試作を行った。動作の概要は以下の通りである。

STEP 1

第一の画面では各章のテーマごとにテスト項目が提示される。ユーザはここでテストしたい項目を選択する。

STEP 2

第二の画面として、STEP1で選択した項目についてのチェック項目が提示される。ユーザは制作したウェブサイトと照らし合わせながら該当する項目にチェックを入れ、「結果の表示」ボタンを押す。

STEP 3

結果として、到達率とテキストの参照ページ、解説へのリンクボタンが提示される。解説では、各チェック項目についての詳細な説明を読むことができる。

5. まとめと今後の課題

本研究では、初心者を対象としたユーザビリティを高めるためのウェブデザインの教材を提案し、試作した。

今後は、提案した教材の評価が必要になる。評価は、名古屋大学理学系教養科目にて実際に使用してもらうことで得る予定である。

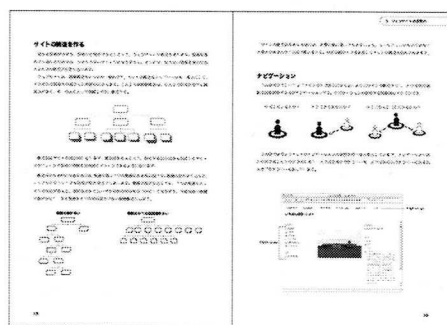


図1 テキスト外観